

戦後池袋―ヤミ市から自由文化都市へ―

落 合 教 幸

二〇一五年、東京芸術劇場・豊島区・立教大学は『池袋Ⅱ自由文化都市プロジェクト』を立ち上げ、九月、「戦後池袋―ヤミ市から自由文化都市へ」と題した企画を開催した。

一九四五年四月の空襲では、豊島区の大部分が焼けた。戦後の復興期には、池袋の東口、西口ともにヤミ市が広がった。ゴザ敷きやバラックの店舗で、様々な物資が販売された。これらの店舗は、一九六二年の東京オリンピックに向けた区画整理の時期まで残っていた。

今回の企画は、戦後七十年を経て、現在の池袋へともつながっていく、焼け跡からの復興を振り返る。展示企画は九月十四日から二十二日まで開催された。

東京芸術劇場では、ギャラリーを使用して展示企画をおこなった。ギャラリー1では、以下のコーナーが設けられた。(1)東京ヤミ市マップ、(2)ヤミ市とその実態、(3)灰の中からの脱出―城北大空襲後の暮らし―、(4)戦後池袋の光景①GHQ占領期、(5)戦後池袋の光景②復興か

ら高度経済成長期へ、(6)カストリ雑誌、(7)戦後マンガ文化、(8)人世坐(1948―1968)人の世をうつした映画の光―。このほか、パルコキノシタ氏によるライブペインティングもおこなわれ、巨大なキャンバスにヤミ市の光景が描かれた。会期中は「としまの記憶」をつなぐ会によるギャラリートークもおこなわれた。

ギャラリー2は「戦後池袋の住人・江戸川乱歩が見た世界」で、乱歩関係の資料を展示した。乱歩の戦後の作品や、スクラップブック『貼雑年譜』の戦中から戦後にかけてのページを紹介した。菅田純一氏の撮影による、土蔵内部の書棚のほぼ原寸大の写真パネルも設置された。乱歩自身が撮影した映像フィルムも上映した。

東京芸術劇場前の池袋西口公園では、十八日から二十日に「ヤミ市場『自由市場』池袋西口ホッピー祭り」が開催された。飲食物や雑貨の店舗が設置されたほか、本部ではすいとんも販売された。野外ステージでは、「池袋昭和懐メロステージ」、「池袋昭和歌謡のど自慢2015」のイベントも催された。

豊島区立郷土資料館では、秋の収蔵資料展「池袋ヤミ市と戦後の復興」と

して、所蔵資料の展示がおこなわれた。郷土資料館には池袋東口にあったヤミ市のジオラマも常設展示されている。

立教学院展示館では「戦中・戦後の立教学院―西池袋の変化とともに」という展示がおこなわれた。展示館は二〇一四年に開館した、立教の歴史を紹介する展示のある施設で、この期間には戦中から戦後にかけての資料が展示された。

自由学園明日館では、「雑誌『婦人の友』に見る市民生活』の展示がおこなわれた。『婦人の友』誌面から昭和二十年代の市民生活が紹介された。ミステリー文学資料館では、「不滅の江戸川乱歩展」が開催された。長らく不明となっていた松野一夫による乱歩の肖像画が展示されたほか、乱歩から高木彬光へ宛てた書簡なども展示された。

旧江戸川乱歩邸もこの期間、特別公開をおこなった。乱歩の描いた、戦中の近隣の見取図や、空襲によって焼失した地区を示した地図なども展示した。空襲に備えて乱歩自身が作った防火用の貯水池も現存している。

さらに、立教大学ではシンポジウム(九月十二日)が開催されたほか、池袋演芸場では関連する落語が上演さ



れ、新文芸坐では戦後を描いた映画が上映された。

今回のイベントでのそれぞれの会場における企画を簡単に述べたが、詳細はこの『センター通信』と同時期に刊行する『大衆文化』第十四号にも掲載している。戦後の池袋についての論文を掲載した第十三号と併せてお読みいただければと思う。

落合教幸（立教大学江戸川乱歩記念

大衆文化研究センター学術調査員）